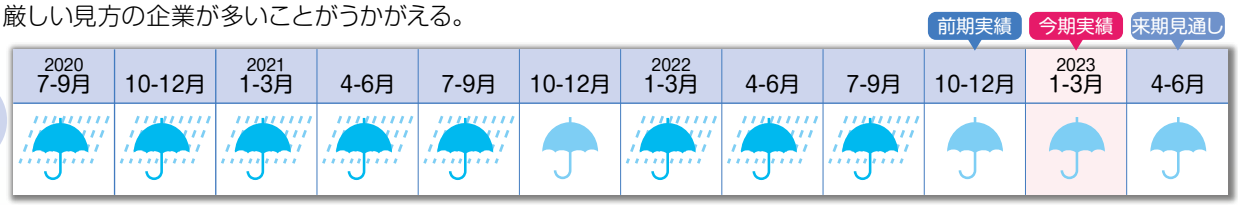
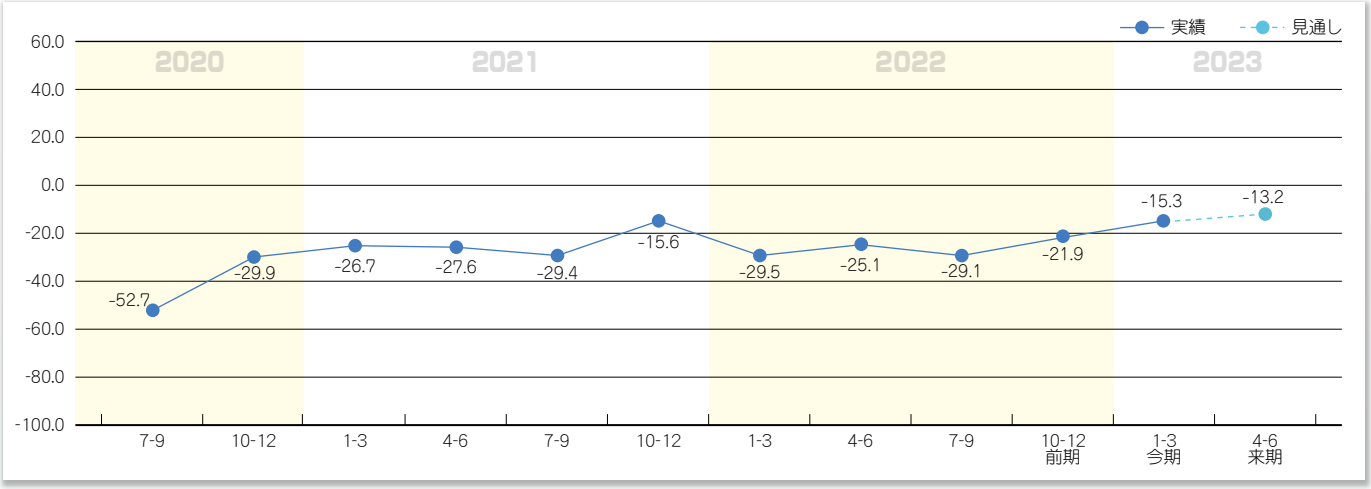
地域の景気動向　2023年3月調査

全業種　回答数326社

今期の業況D・Iは、前期比6.6ポイント上昇の▲15.3と、2期連続で改善。業種別では、製造業、卸売業が大幅に改善した。一方で、小売業、サービス業は悪化した。来期の予想業況D・Iは、2.1ポイント上昇の▲13.2。改善の見通しではあるが、依然マイナス域であり、厳しい見方の企業が多いことがうかがえる。

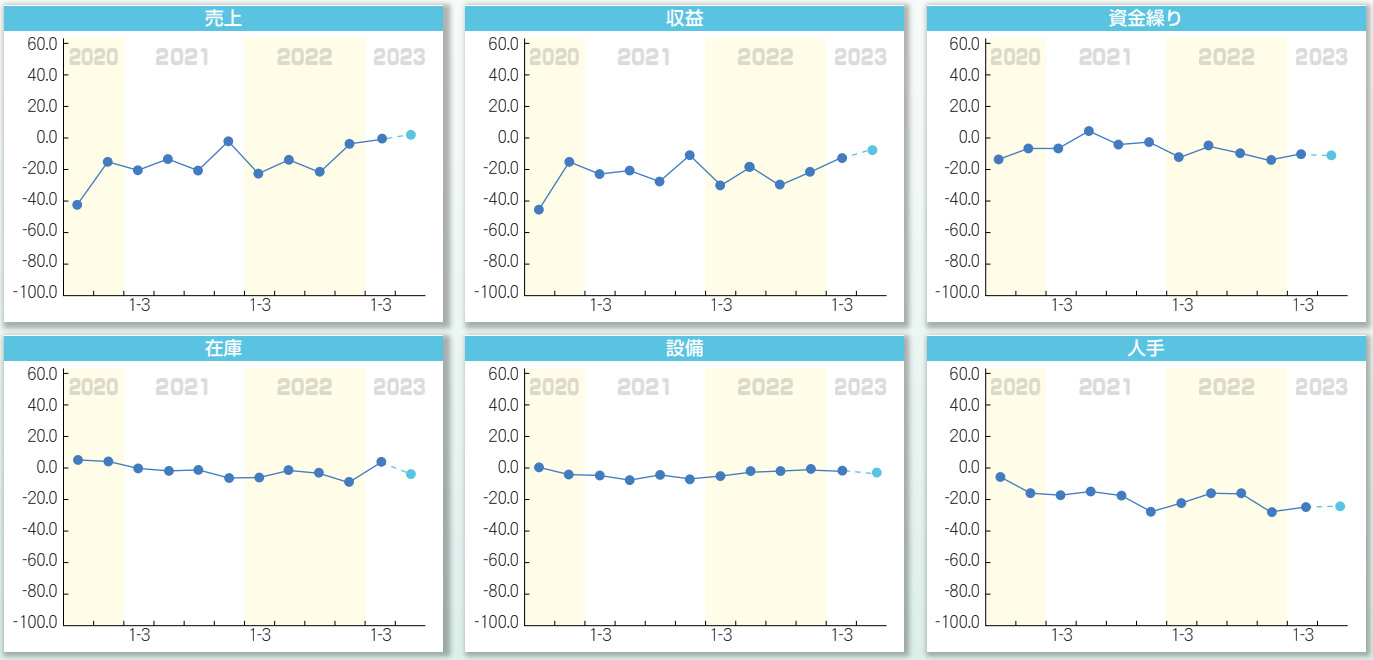
業況D・Iの推移





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



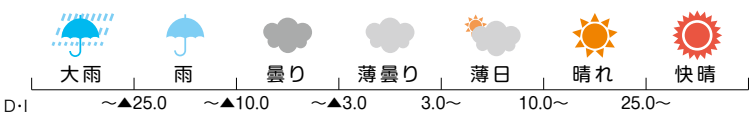
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測（景況）を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

- 実施時期　2023年3月1日～7日
- 対象企業　326社
- 対象地域　西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方

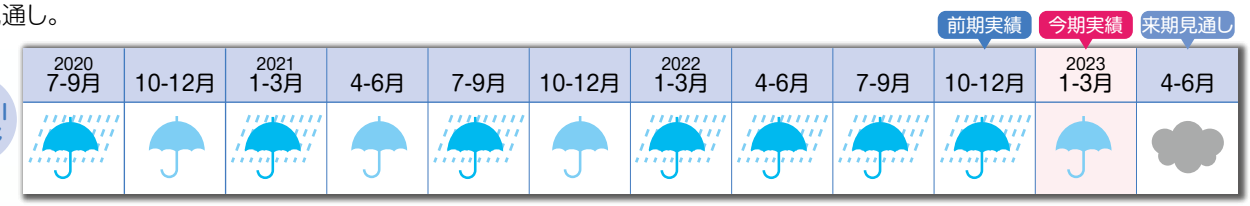


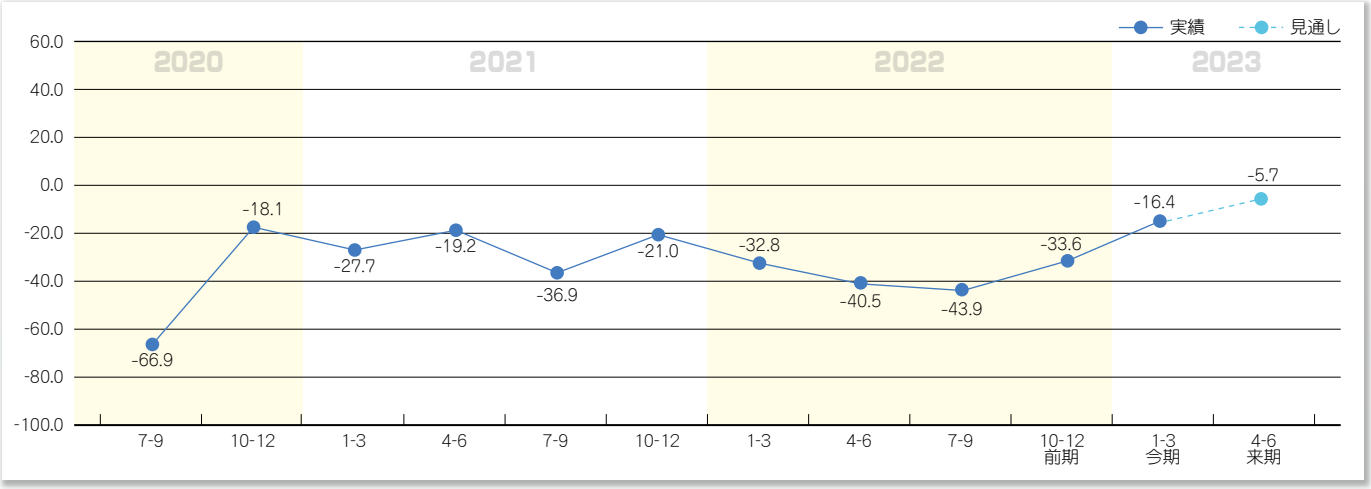
D・I(ディフュージョン・インデックス)とは…業況（業界の景気）等を判断するための指数であり、〈良いまたはやや良いと答えた割合〉－〈悪いまたはやや悪いと答えた割合〉で求められます。

製造業　回答数122社

今期の業況D･Iは、前期比17.2ポイント上昇の▲16.4と、2期連続で改善。受注が回復傾向にあるとの声が多く、売上、収益とも順調に推移。一方で、コスト上昇の対応に苦慮する企業も見られる。来期の予想業況D･Iは10.7ポイント上昇の▲5.7と、さらに改善の見通し。

業況D･Iの推移





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

調査員のコメント

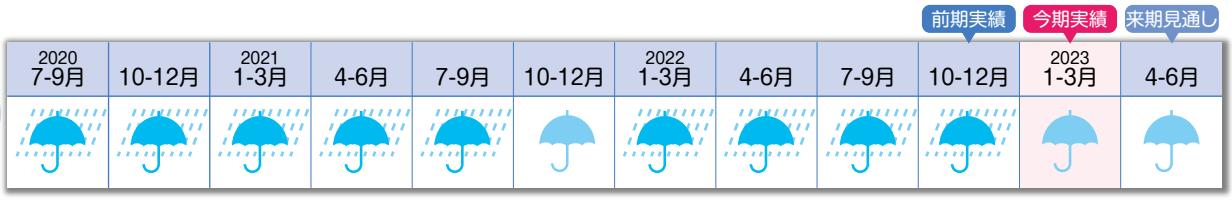
- ●主要取引先からの受注増加に伴い売上は回復傾向にある。補助金を利用した新たな設備投資やIT化等、様々な取り組みをしている。(機械製造)
- ●コロナが落ち着いてきたことや展示会の開催等により、前期に比べ売上が増加した。(繊維製造)
- ●原材料費が高騰している。値上げ交渉に苦戦中。(窯業)

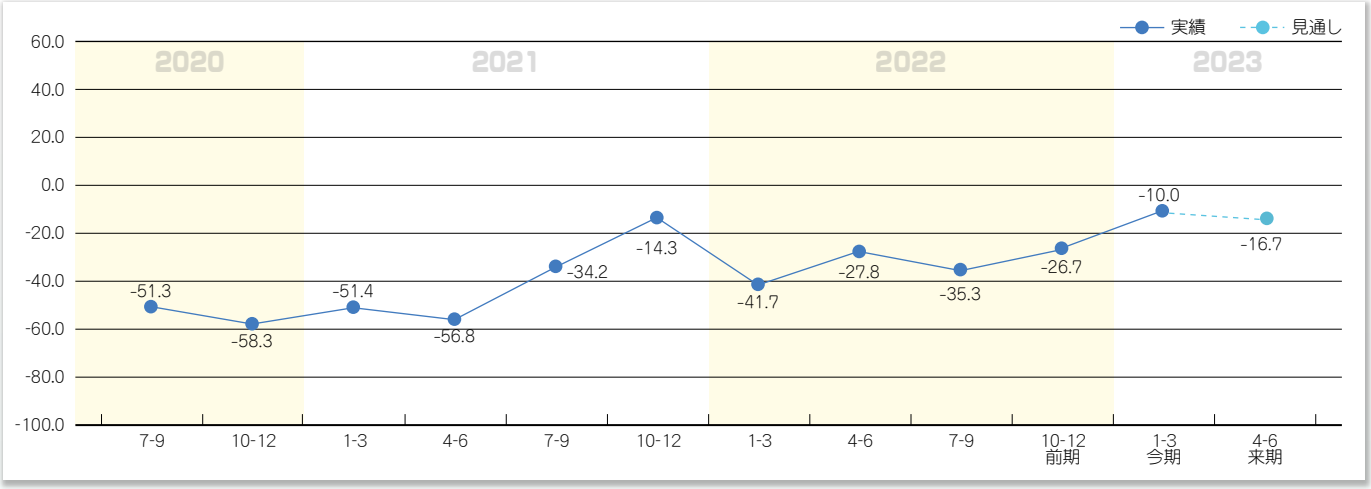
卸売業

回答数30社

今期の業況D･Iは、前期比16.7ポイント上昇の▲10.0と、2期連続で改善。コスト上昇分を価格転嫁できているとの声が多く、収益は大幅に回復。来期の予想業況D･Iは6.7ポイント低下の▲16.7と、悪化の見通し。先行きに対し厳しい見方の企業が多いことがうかがえる。

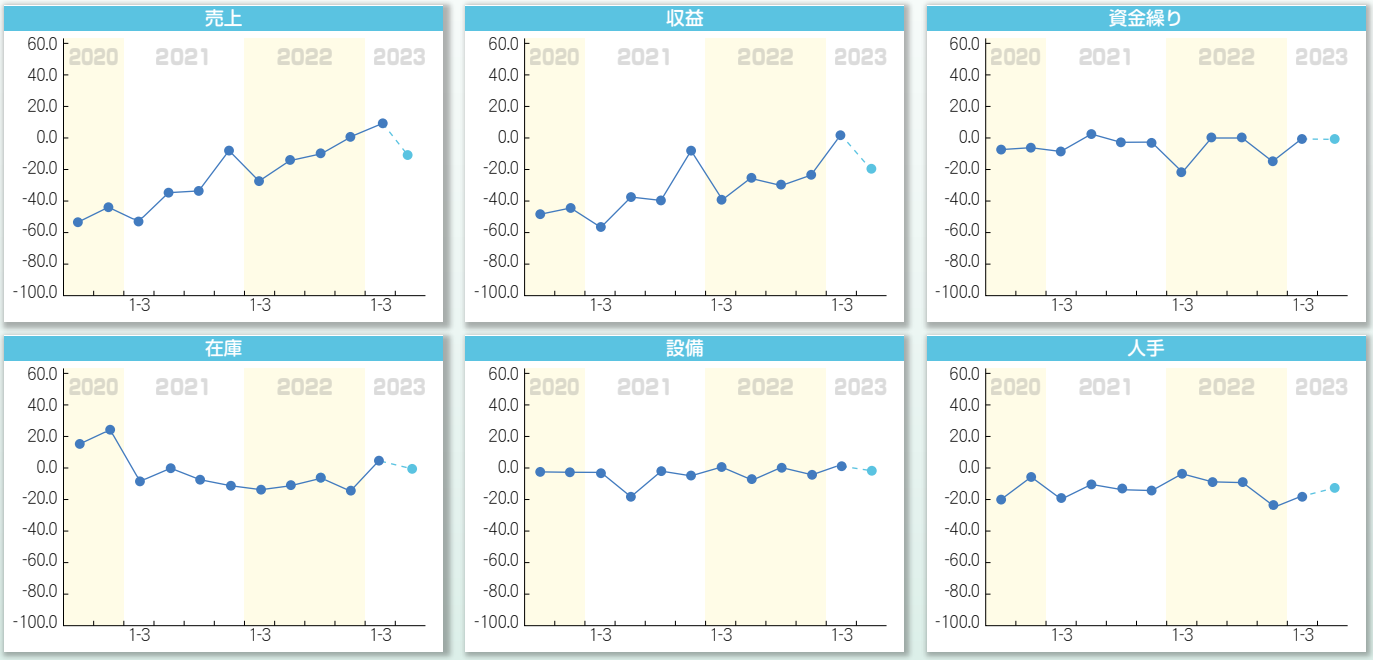
業況D･Iの推移





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



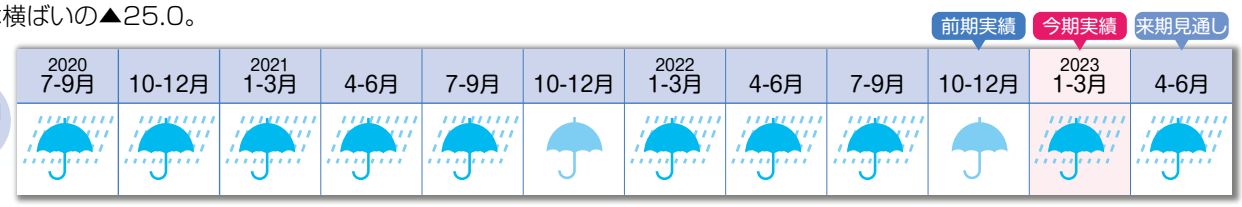
調査員のコメント

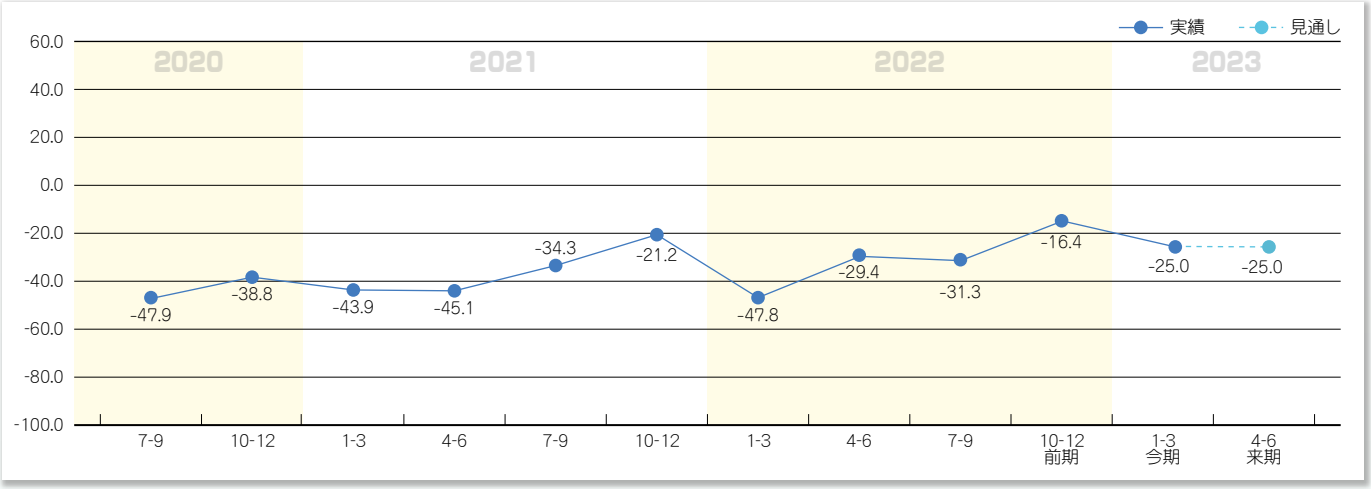
- ●値上げラッシュが続いている。値上げ交渉は、以前と比べて取引先からの理解が得られるようになってきた。(食品卸売)
- ●コロナの影響は収まり、業況は回復。従業員にインフレ手当(一時金)の支給や4月からのベースアップを予定。光熱費も昨年の2.5倍と増加傾向にあり、今後は価格転嫁を視野に入れていく。(鋼板卸売)
- ●従業員が少なく、慢性的に人手不足。若い人材の採用により仕事量を増加することが出来れば、売上増加につながると思われる。(砕石卸売)

小売業　回答数72社

今期の業況D･Iは、前期比8.6ポイント低下の▲25.0となり、悪化。コロナ禍により遠のいた客足が完全に回復していないことや、仕入価格上昇の影響が大きい。売上･収益増加のため、新規事業立ち上げや価格転嫁等に取り組む企業が多く見られる。来期の予想業況D･Iは横ばいの▲25.0。

業況D･Iの推移





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

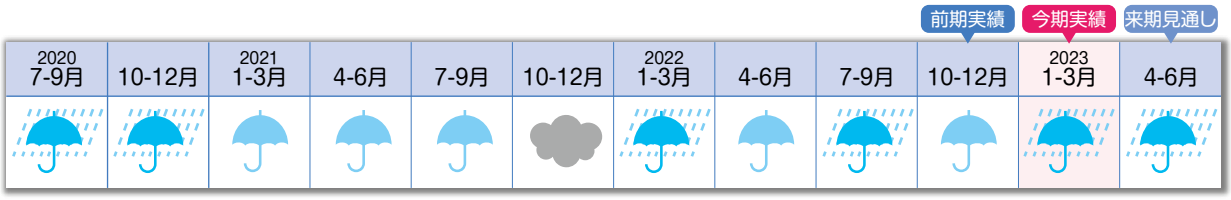
調査員のコメント

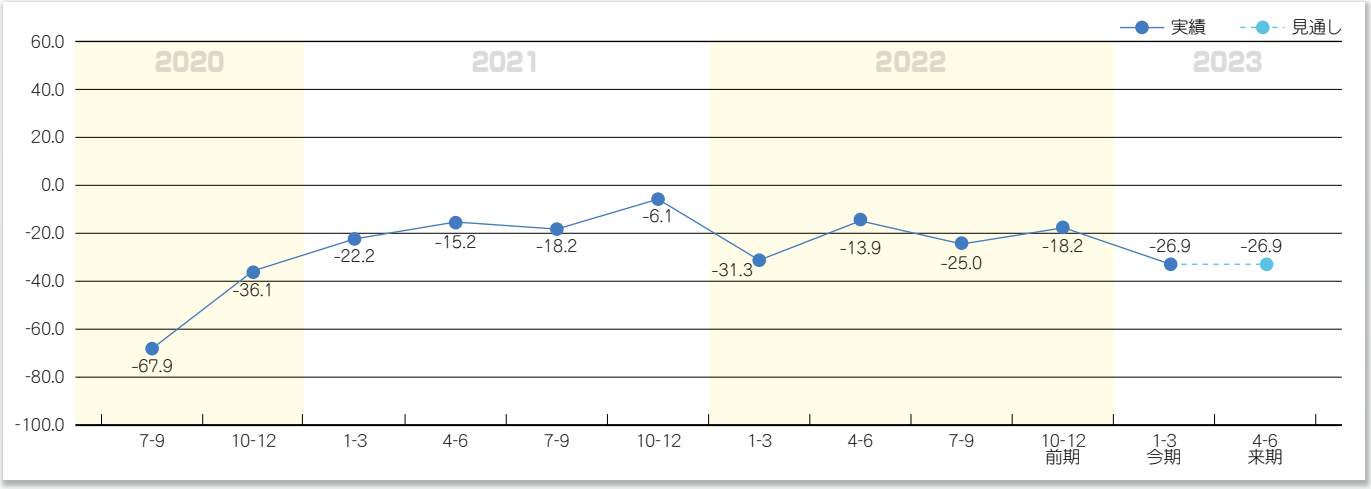
- ●来店客が未だ戻らず、厳しい状況。また、あらゆる食材の価格が高騰しており、利益率は縮小傾向。商品単価を上げるしかない。(飲食店)
- ●新事業で化粧品の取り扱いを開始したので、幅広く宣伝していきたい。(呉服店)
- ●国内販売よりも、海外への輸出が増加傾向。円安の影響はプラス。(中古車販売)
- ●商品の売れ行きは好調であるが、パートの人員確保が困難な状況で、経営者自身の労働時間が増加している。(コンビニエンスストア)

サービス業 | 回答数26社

今期の業況D･Iは、前期比8.7ポイント低下の▲26.9と、悪化。コロナ禍の影響は落ち着きつつあるものの、物価高騰による影響が大きく、収益の悪化が続いている。来期の予想業況D･Iは横ばいの▲26.9と、来期も厳しい状況が続くことが見込まれる。

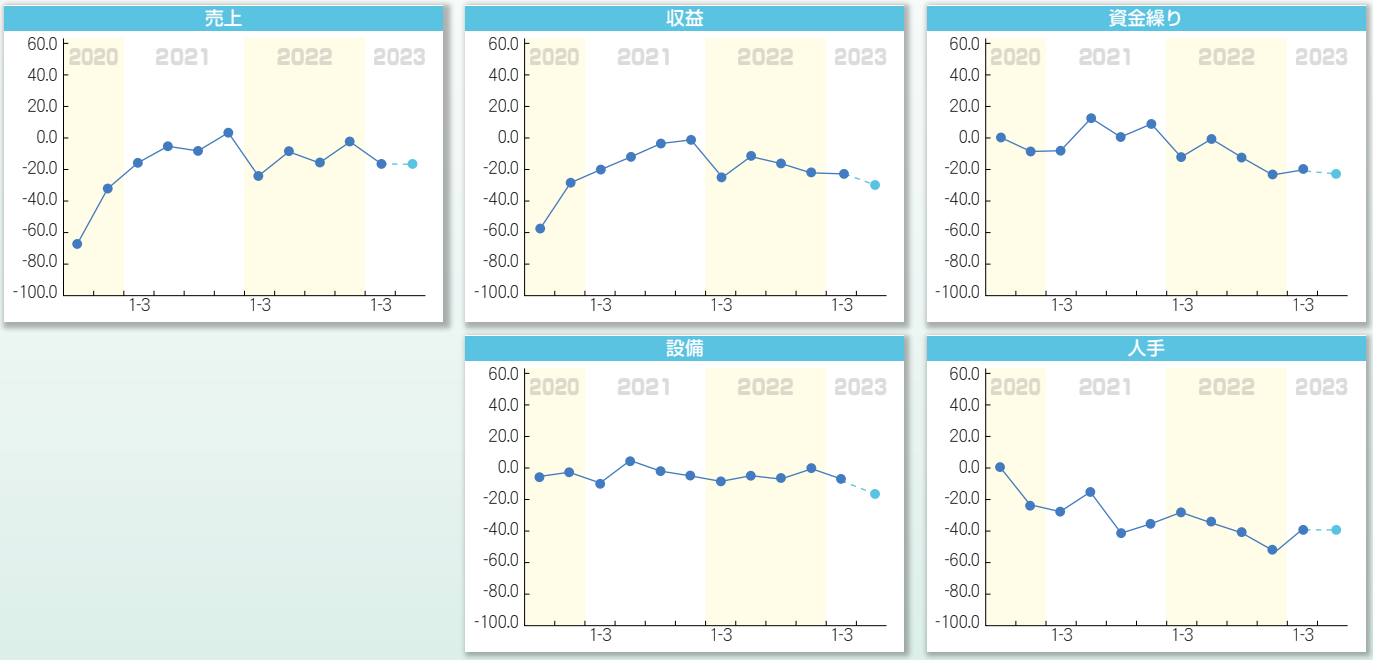
業況D･Iの推移





主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



調査員のコメント

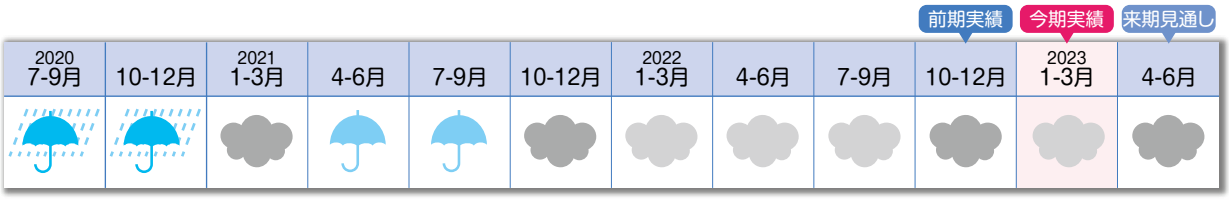
- ●現在も物価高騰の影響があり利益確保が困難。客足は回復しつつあり、回転数を上げるために従業員の育成に努めている。(理美容院)
- ●燃料コスト高騰の影響を受けている。また、昇給による人件費増加の影響を懸念。(クリーニング店)
- ●YouTubeチャンネルを運営中。取引先の紹介動画を作成することで、より地域に根差した取り組みを行っている。(税理士)

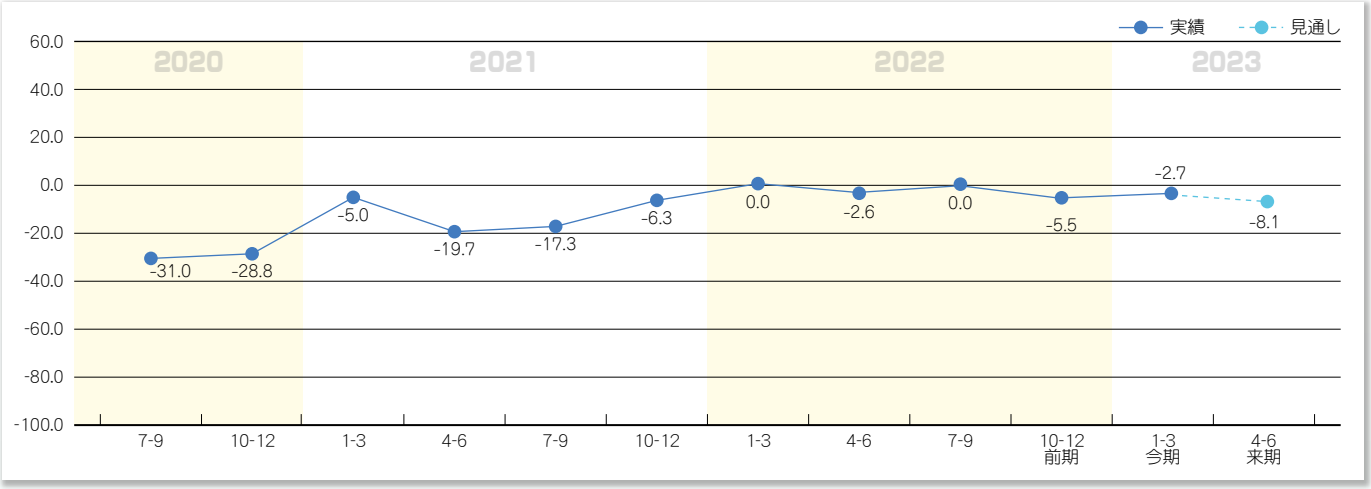
建設・不動産業

回答数74社

今期の業況D･Iは、前期比2.8ポイント上昇の▲2.7となり、若干改善。資材や地価高騰の影響はあるものの、価格転嫁等により収益を確保できている企業が多い。来期の予想業況D･Iは5.4ポイント低下の▲8.1と悪化の見通し。依然として先行き不透明感は払拭されていない。

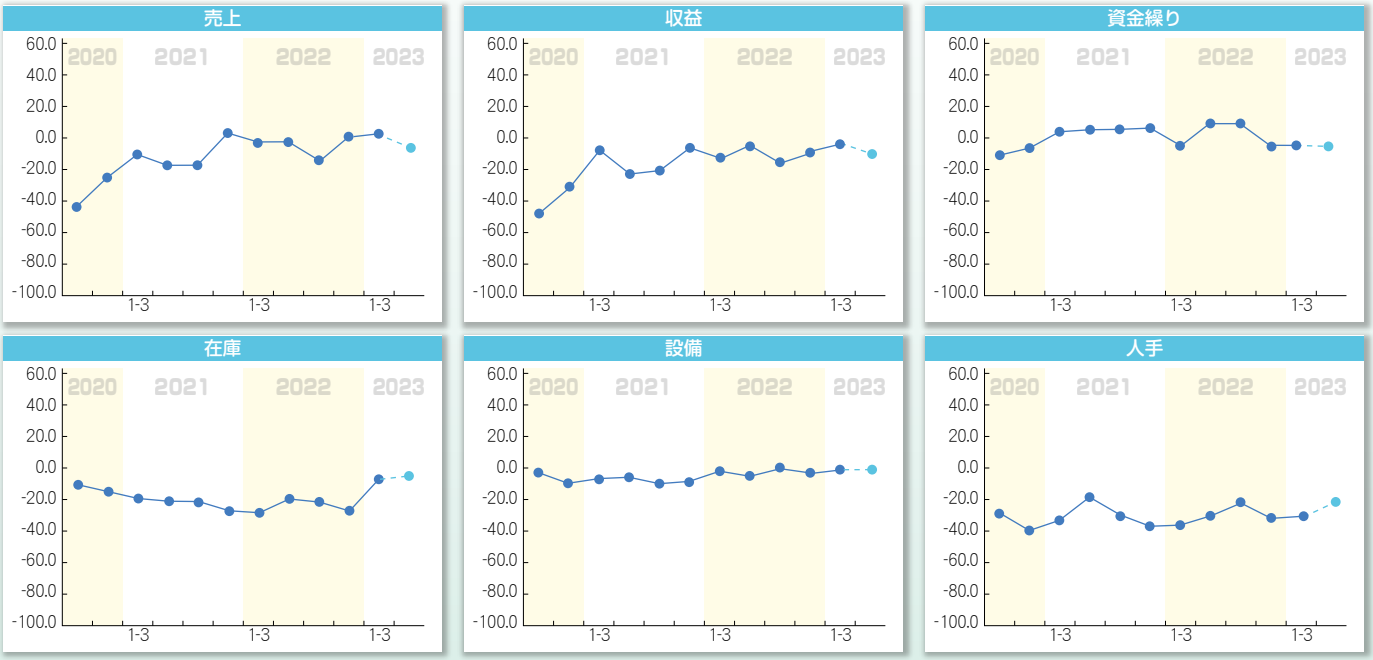
業況D･Iの推移





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



調査員のコメント

●住宅価格が数年前とは比べものにならないくらい高騰している。それにともない仲介手数料は増加傾向。(不動産仲介)

●資材価格高騰が続いているが、なんとか価格転嫁できており、利益は確保できている。(建売業)

●モデルハウスの順調な展開等により、受注が確保できている。(住宅建築)